

図表 3 決算期（市場区分別）



カンファレンスは機関投資家向け
 ≡ 会社規模が大きい会社向け
 ∴ 3月決算会社に合わせて実施

監査を受けるためにも決算期を
 3月からズラしている会社が多い

東証上場会社の決算期の状況は図表 3のとおりである。3月期決算を採用している会社が63.1%と最も多い。なお、3月期決算の比率は2006年の76.4%から、14年間で13.3ポイント減少している。市場区分別にみると、3月期決算の会社の比率は、市場第一部では68.2%、市場第二部では69.2%と高いのに対し、マザーズでは32.5%、JASDAQでは57.4%にとどまり、12月期決算や9月期決算などに分散している。

【IPOの目線】

- IPO準備会社の監査を請けてもらえない「監査難民」と言われる会社の声が多い。
 (特に**3月決算は開口一番無理**と言われる)
- **上場企業ですら決算期を変えている**から決算期変更も検討した方が良い。
- とは言え、6月、9月、12月は3月決算会社の四半期があるから注意が必要だ。

【IRの目線】

- 証券会社の**カンファレンスが決算発表後の5月や11月、2月に集中**するので決算のタイミングと合うので都合は良い。(サイレント期間中は参加しづらい)
- 証券会社(セルサイド)のアナリストも**3月決算だとレポート書く会社が多くてカバーしてくれない**。
- コーポレートガバナンスコードでは**株主総会の集中を回避**しろと言っているから3月決算を避けるとプラス評価。